

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2023年4月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2023年4月11日～4月30日
- 調査対象 200社
- 回答企業 133社
- 回収率 66.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の4月の状況を見ると業況DIは、前月より5.7ポイント改善の▲18.8となった。

2017年9月以来68ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲15.1、当月と比べ3.7ポイントの改善が見込まれる。

旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

	2022年 11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 2023年5月～ 2023年7月
業況	▲21.4	▲34.4	▲23.8	▲31.0	▲24.5	▲18.8	▲15.1
売上	3.9	▲11.7	▲5.5	▲8.0	▲4.9	5.3	11.3
採算	▲23.0	▲29.7	▲25.4	▲31.0	▲23.7	▲21.0	▲15.1
仕入単価	▲72.2	▲72.7	▲69.8	▲69.0	▲67.2	▲68.4	▲61.7
販売単価	37.3	33.6	29.3	31.8	29.5	28.6	27.8
従業員	40.5	35.2	31.7	30.9	31.1	33.1	31.6
資金繰り	▲11.9	▲14.8	▲15.1	▲18.2	▲17.2	▲7.5	▲5.3

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2022年 11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 2023年5月～ 2023年7月
建設	▲35.5	▲53.1	▲51.8	▲65.5	▲53.6	▲20.7	▲27.6
製造	▲13.8	▲28.6	▲19.3	▲27.6	▲32.1	▲20.0	▲23.4
卸売	▲21.4	▲20.0	▲7.4	▲16.7	▲10.3	▲9.4	▲9.4
小売	▲11.8	▲25.0	▲18.7	▲29.4	▲11.1	▲4.4	▲4.4
サービス	▲19.1	▲40.9	▲17.4	▲9.5	▲5.3	▲47.3	▲5.2

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

<p>建設業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外上限規制(2024年4月)への対応。業界全体の問題として発注者側の余裕を持った工期設定が必要である。また、人員(技術者)不足による恒常的な時間外労働が発生しており、ICTの導入や業務効率化を進めるも効果は限定的である。(総合工事) ・工事受注量は減少傾向にブレーキが利かず下降線をたどっている。さらに原材料費やエネルギーコストの上昇分、物価高騰と人件費の上昇は僅かしか販売単価に反映できていない。よって、今後の業績の低下は決定的である。しかし、このような中でも人材については、将来を見据え即戦力(資格保有者)と若い人材の確保を積極的に進めている。(設備・その他) ・原材料上昇による新築住宅ニーズの落ち込みに加え、大工不足による生産性の低下で、受注面にも悪影響を及ぼす懸念がある。新卒大工と経験者の中途採用双方を積極的に行い、大工の確保に努めていく方針である。原材料高による建設コストの上昇により建設業界全体の業況は厳しいが、施工面積を抑制した手ごろ感のある価格帯の住宅販売も強化していくことも経営戦略の一つと考える。(建築業)
<p>製造業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナからの回復で1年以上増収傾向ではあったが伸び率が鈍化傾向。4月から一部商品再値上げ実施。原材料・人件費・エネルギーが高騰しており今後の見通しは厳しい。価格値上げで表面売上額は伸びているが、販売量は微増の状況。観光客増加で伸びしろはあるが、価格値上げによる顧客離れも気になり、今後も注意。(食料品) ・人材不足は続いている。色々な媒体に募集をかけているが、問い合わせも無く苦労している。一人当たりの負担も大きく残業が増えている。今は印刷業のため、この時期統一地方選挙で忙しい。(印刷・出版) ・4月に価格改定を実施した事による受注駆け込み需要が売上増加に繋がっている。(家具・木材) ・資材値上げが続伸。秋口の需要の減が気になっている。(金属窯業他)
<p>卸売業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自社、鶏肉の処理加工を業いとしているが鳥インフルエンザの為、入荷予定であった生鳥が年間30万羽が無くなり、生産量が30%程落ち込み、それに伴い売上が30%落ち大変厳しい状況。(飲食料品) ・売上に関し、価格転嫁できている為、増加傾向にあるが、コスト面の増加もありコストダウン項目の追求が必要不可欠。(機械鋼材) ・主要取引先である営農者の購買意欲がまだ高くなく売上は前年同期と比較し、若干の減少がみられる。その他顧客動向については、多くの法人が新年度に入り受注が増加している。(その他)
<p>小売業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4月の一週目は天候も良く来店客が増える予想であったが、3月の一週目より客足が少なく大変苦戦している。4月の二週目は週末に黄砂が降り、来店客が減った。4月はスーツの需要があるがコロナの影響で(来店客の)予算額が厳しい。(衣服身回品) ・業況は好調だが、引き続き従業員不足は解消されていない。(食料品) ・人手不足による賃金の値上げ・仕入値の価格上昇、それに見合った販売価格の転嫁が出来ていない。(その他) ・仕入れ価格も落ち着いてきたが、市況的に低価格の商品の販売が多く、売上げが全く伸びない状況である。(自動車)
<p>サービス業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響はまだまだ続いている。物価の上昇等の影響もあるのか引き締め感が強いように感じる。(理美容・クリーニング) ・インバウンド向けのホテルのため、インバウンドが戻らない限り予約が入らない。(ホテル・旅館) ・担い手も含め労働力が不足している中で、現在の売上と採算を維持するためには生産性を上げる必要があり、そのためには設備投資が必要不可欠である。設備投資に見合った生産性の向上が望めるかどうか葛藤中である。(その他) ・売上は上昇しているが、仕入価格の上昇が止まらなく厳しい状況になっている。(飲食) ・人の移動量が戻りつつあり、観光入り込み客数も順調ではあることから足元の業績は8割方回復してきた感はある。返済負担で資金繰りが厳しさを増しており、賃金改定も厳しい。人材不足はしばらく解消できないことは将来不安を大きくしている。(運送)

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI15.0 ポイント改善、採算 DI18.9 ポイント改善、仕入単価 DI2.7 ポイント改善、販売単価 DI6.7 ポイント改善、資金 DI25.0 ポイント改善、従業員 DI5.5 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 32.9 ポイント改善となった。業種別では、総合工事 31 ポイント、設備・その他 19 ポイント、建築業 67 ポイント改善となった。以前は先行き仕事量が減ることを心配したが、今は将来の受注物件で利益を出しながら、工期内に完成できるだけ働き手が集まるかが心配の種。これだけ先行きに自信が持てないのは、20 年ぶりかもしれないとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI41.5 ポイント改善、採算 DI22.6 ポイント改善、仕入単価 DI5.1 ポイント悪化、販売単価 DI1.1 ポイント改善、資金 DI3.0 ポイント悪化、従業員 DI11.7 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 12.1 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、食料品 2 ポイント、印刷・出版 5 ポイント、家具・木材 29 ポイント、金属窯業他 10 ポイント改善となった。例年 1 月～3 月は売上が伸び悩む時期だが、今年はコロナ前よりも伸ばすことができたが、仕入原材料の値上げが収まる予想が無い為、資金繰りの影響が心配されるとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI3.4 ポイント改善、採算 DI9.1 ポイント悪化、仕入単価 DI15.8 ポイント改善、販売単価 DI17.7 ポイント悪化、資金 DI4.1 ポイント改善、従業員 DI1.9 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 0.9 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、食料品 5 ポイント悪化、繊維・衣服等、その他横ばい、機械鋼材 14 ポイント改善となった。今年度も複数名の新入社員を採用して社員研修を行った。一方、次年度の採用に向けても求人を進める予定であるとの声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI13.1 ポイント改善、採算 DI0.7 ポイント悪化、仕入単価 DI25.1 ポイント悪化、販売単価 DI10.7 ポイント改善、資金 DI15.4 ポイント改善、従業員 DI24.4 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 6.7 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、食料品 11 ポイント、自動車 14 ポイント悪化、衣料品 50 ポイント、その他 23 ポイント改善となった。様々な商品の値上がりにより消費者の節約ムードが強まってきているとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI36.9 ポイント悪化、採算 DI31.6 ポイント悪化、仕入単価 DI5.2 ポイント悪化、販売単価 DI 横ばい、資金 DI5.3 ポイント改善、従業員 DI0.1 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 42.0 ポイント悪化となった。業種別では、理美容・クリーニング 33 ポイント、飲食 8 ポイント改善、ホテル・旅館 175 ポイント、その他 8 ポイント、整備業 50 ポイント、運送 42 ポイント悪化となった。コロナの間押さえてきた設備投資の積み残しがある。早期に解消したが現状めどが立たないとの声も寄せられている。</p>